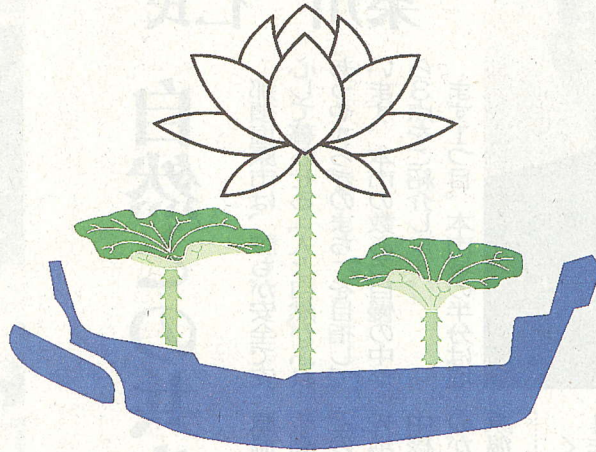


宇都宮・県央版

400年のロマン求めて

宇都宮城跡
蓮池再生委



再生検討委員会のシンボルマーク。ハス池をイメージした容器に咲く花は「みんなで実を探し、花を咲かせて色をつけたい」と無色のまま

ハスの実採取に挑戦

発掘調査に協力呼び掛け

【宇都宮】宇都宮城の東側にあったハス池再生に取り組んでいる市民団体「宇都宮城跡蓮(はす)池再生検討委員会」(石川速夫会長)は四月五日、当時のハスの実を求めて発掘調査を行う。昨年の地質調査で地中からハスの花粉が確認されており、同委員会はハスの実の存在を確信。四百年前に咲いていたともいわれる宇都宮城のハス再生に期待が高まっている。

(増田稔)

かつて宇都宮城の東側にあり、さらに古く約四百年前から存在した可能性も指摘されている。ハス池は現在、住宅や駐車場に姿を変えているが、同委員会はかつての

ハス池の位置を特定。昨年三月末、その一角で地質調査を行い、同委員会発起人の松居誠一郎宇都宮大教授によってハスの花粉が確認された。

今回の発掘調査では、花粉の存在が確認された深さ一・七センチから二・七センチにたい積した池底の泥を採取。ふるいにかけてハスの実を探し出す。

「大賀ハス」と呼ばれる古代ハスも、一九五一年三月に初めて地中から発見された約二千年前の実から発芽し、五二年七月に開花。当時「世界最古の花・生命の復活」といわれたという。

同委員会はハスの実が見つければ年代を特定した上で発芽させ、江戸期の花をよみがえらせたい考え。「多くの市民の力でぜひハスの実を探し出したい」と、ふるい体験などへの協力や見学を呼び掛けている。

調査は五日午前九時から、本丸町の宇都宮記念病院健診車駐車場(宇都宮城址(一)公園東側、県道宇都宮―結城線沿い

で行う。
問い合わせは印南洋造
事務局長 ☎028・66
3・1313へ。

徳川将軍も見た!? ハスの種探そう

あす宇都宮城跡 ボーリング調査実施

江戸時代、将軍が日光参拝時に宿泊した宇都宮城(宇都宮市本丸町)にあったとされるハス池跡地からハスの種を探し出そうと、宇都宮市の市民グループが5日、東京電力などの協力を得てボーリング調査を行う。4、5センチの土を掘り出してふるいにかけて、埋もれていた種を探す。同グループは「多くの市民に参加して欲しい」と協力を呼びかけている。

市民の参加募る

調査を行うのは、06年に発足した市民グループ「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」(石川速夫会長)。昨年は宇都宮大学などと合同で地質調査を実施し、ハスの花粉を検出。地層に種が眠っている可能性は高いとみており、「見つかったら育てて花を咲かせたい」と夢を描いている。

5日の調査は、宇都宮城跡公園東側の民有地で地権者の了解を得て実施。東京電力から電柱の新設などに使う建柱車を借りて地下4〜5メートルの土を掘り出す。周辺の小中学校7校にも参加を呼びかけており、同会事務局は「種を探す作業を通じて歴史を知り、郷土愛を育ててもらいたい」と話している。

ボーリング調査は5日午前8時半〜午後5時。参加無料。軍手などの道具は同会が用意する。問い合わせは同会事務局長の印南さん(0288・663・1313)へ。

宇都宮城跡蓮池再生検討委 情報誌「夢通信」を創刊



江戸期の宇都宮城にあったという蓮池の再生に向けて活動を続けている市民グループ「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」(石川速夫会長)は、会の活動などを

紹介した情報誌「蓮池の夢通信」Ⅱ写真Ⅱを創刊した。

同会は平成18年2月に発足。蓮池再生に向けた要望活動や講演会の開催などを

続けている。

情報誌を通して活動をPRするとともに江戸期の人々が愛でたハスに対する理解を深めてもらう。創刊号では、活動経過や今後の予

定などをカラー写真を交えて紹介している。A4判で2000部を作製した。

同会によると、昨年3月の調査で蓮池跡の土砂からハスの花粉の検出に成功した。5日の発掘調査では、ハスの種12個が発見された。

問い合わせは同会の印南洋造事務局長 ☎028・663・1313。

ひと・はなし



宇都宮城跡蓮池再生検討
委員会事務局長
印南洋造さん(58)
—宇都宮市平出町

「夢物語が夢でなくなっ」に「夢物語」だった。だが
た」。江戸時代、宇都宮城 昨年7月、付近の土壌から
にあった蓮池の再生を目 蓮の花粉が見つかり、蓮
指す市民グループ「宇都 があった事実を証明。今
宮城跡蓮池再生検討委員 月5日には地権者の協力
会」の事務局長を務める。 を得て、蓮池跡地の採掘
約10年前、益子町の陶芸 調査を敢行。計12個の蓮
店で育てられていた蓮の の実が見つかった。年代
花の美しさに感動し、自 測定を経て今後、生育に
らも生育に没頭。宇都宮 挑戦する計画だ。
城復元の動きに合わせ、 同委員会マークの蓮の
愛好家仲間とともに06 絵に、まだ色はない。理
年2月、委員会を設立し 由は「実から何色の花が
た。 咲くかはわからない」か
蓮池は城の東側にあっ ら。蓮の絵に着色する日
たとされ、現在は住宅街の が待ち遠しい。

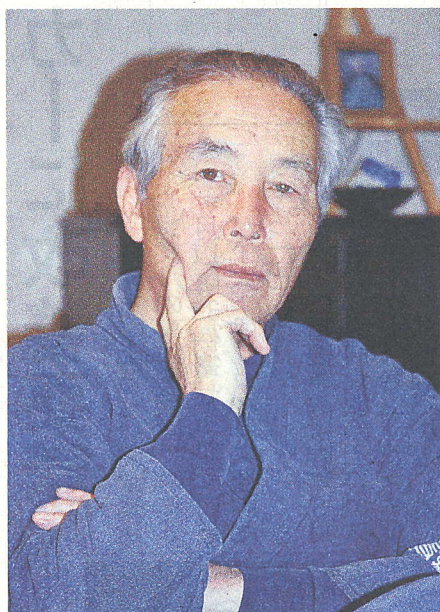
【吉村周平】



江戸期の宇都宮城にあったという蓮池の存在を証明する蓮の実を今月5日、掘り当てた。もともとは、平安朝末期から宇都宮を治め、鎌倉や京都で活躍した宇都宮氏、特に一族が編纂にかかわった和歌集の研究が専門。宇都宮の歴史と文化を後世に伝えようという思いが、「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」の会長を引き受けた理由という。

会の設立は平成18年2月。宇都宮城をよみがえらせようと本丸の復元工事が始まったころ、宇都宮市職員で蓮文化研究会の理事を務めていた印南洋造氏(現事務局局長)が突然やってきて、「会長

宇都宮城跡蓮池再生検討委員会会長 石川速夫さん (76)



■石川速夫(いしい・はやお) 昭和6年6月、宇都宮市生まれ、76歳。大学卒業後、県立高校の国語教師となり、宇都宮東高校校長で定年退職。県生涯学習振興財団理事長を務めた。現在は無職。

次代に咲かす歴史文化

「なってくれ」と言われた。白羽の矢が立ったよう

め、白羽の矢が立ったよう

「当時の蓮の花を市内のどこかに咲かせよう」というのが会の狙い。

見つけた蓮の実12個は宇都宮大学の松居誠一郎教授らの手で実際に咲かせてみて、江戸期の蓮の花がどんなものだったかを調べる計画だ。咲いたら殖やし、市内のどこかで江戸期と同じ蓮の花が見られるようになる。

印南氏は、古い宇都宮の絵図で宇都宮城の東側に「上蓮池」「下蓮池」があったのを知り、城だけを復元するのではなく、周囲の蓮池にも光を当てたいと考え、江戸期の蓮池の再生を目指す会を設立しようとしていた。宇都宮市史の編纂に携わり、宇都宮氏一族と歴史に造詣が深かったため、この会を立ち上げた。蓮池の再生という目的も、住宅や道路になっていく市街地で堀を掘り出すのは不可能なため、

「今回の発掘で、あそこ蓮池のお堀があったというのを市民に理解してもらおうのが何よりも重要。宇都宮城は本丸だけでなく、蓮池があり、西堀があり、東は田川まで城内で、実際はもっと大きかった」と当時の様子を語った。

その上で、「宇都宮は建物をなくし、堀を埋め、城を全くなくしてしまった世にも珍しい町だと思ふよ。史跡を大事にしなかったんだ」と、歴史と文化を大事にしない県の風土と県民性にも話は及んだ。

(高橋健治)

論 説

ハスの実発掘

とちぎ発

生かしたい 歴史の贈り物

関東七名城とうたわれた宇都宮城は、城の東側に「上蓮池」「下蓮池」があり、一面に美しいハスが咲き誇っていたと伝えられている。

この蓮池を現代によみがえらせようと活動が続けている市民団体「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」の手で四月五日、蓮池があったと推定される場所から、ハスの実十三個が掘り出された。

詳しい年代測定を待たなければならぬが、時代を超えて現れたハスの実には、歴史のロマンを感じる市民は少なくないだろう。ハスを宇都宮城址公園の整備や、市の歴史展示に生かしてもらいたい。

再生検討委員会は、二〇〇六年に石川速夫元宇都宮東高校長を会長に据え、エッセイストの志賀かう子さんと宇都宮大学の松居誠一郎教授らを発起人に結成された。事務局長は、ハスの研究家として知られる市職員の印南洋造さんが務めている。

宇都宮城の蓮池は、江戸初期の一六六三年の絵図に描かれているが、宇都宮城が戊辰戦争で焼失した後に埋め立てられ、現在は住宅や駐車場に姿を変えている。

再生検討委員会は、県測量設計協会などの協力を得て二つの池の場所を特定し、四月五日の発掘調査にこぎ着けた。発掘調査も、東電宇都宮支店や県地質業協会など多く

の団体が協力した。

これらの協力が文字通り結実してこの日、十二個のハスの実が見つかった。その後、採取した土の中から新たに一個見つかり十三個になった。印南事務局長は、炭素による年代測定をしてから、発芽

処理を行うという。歴代の城主や将軍が見ていた宇都宮城のハスの花が、順調に行けば、来年の夏には見られそうだ。

城址公園の今後の整備や、市の歴史展示に利用しないのは「もったいない」。

宇都宮城の蓮池再生については、昨年の十二月市議会一般質問でも取り上げられた。この時点の市の答弁は、「活動の推移を見守る」というものだった。「時代が特定されれば」という前提がつくが、歴史の贈り物・ハスを宇都宮の題材になるはずだ。